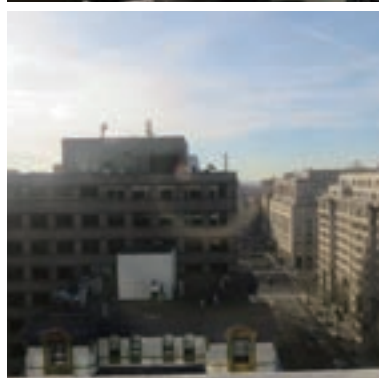
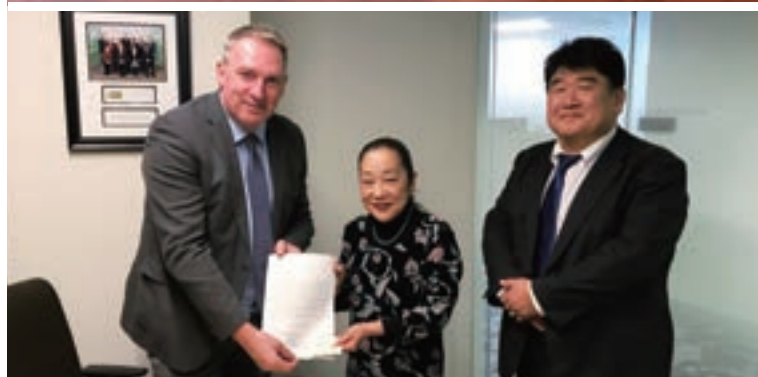


RESULTS JAPAN ANNUAL REPORT



01

JANUARY

令和2年度
事業報告書

2020 年 01 月 02 日

箱根駅伝 青学大 往路新記録で優勝！

新年早々嬉しいニュースが飛び込んできました。

第 96 回東京箱根間往復大学駅伝(通称：箱根駅伝)往路が行われ、青山学院大学が 3 年ぶりに優勝しました。監督、選手の皆さん、関係者の皆様、おめでとうございます。なんと、速報値で 5 時間 21 分 16 秒の往路新記録だそうです。

実は前学長の三木義一先生は白須が骨髓バンクで活動をしていたころからの友人で、予算アドボカシーや税制調査会等でもお世話になっています。白須がお祝いの C メールを送ったところ、早速、温かいお返事をいただいたそうです。

明日の復路も楽しみですね！

謹賀新年 2020！

皆様、あけましておめでとうございます！

去年は、グローバルファンドの増資、Gavi アライアンスのプレ増資会合、TICAD7 に合わせたアフリカ健康構想の立ち上げ、G20 の開催等、盛りだくさんの 1 年でした。また、色々な取り組みを通じて、関係各機関の皆様との繋がりが強まった実りのある令和元年でした。本当に皆様にお世話になりました。また、皆様のお陰もあり、クラウドファンディングも目標金額の半分である 75 万 9,000 円まで到達することができました。皆様のお力添えに深く感謝しております。

ただ、目標金額は 150 万円ですので、是非、お知り合いの方にご周知いただけますと幸甚でございます。

今年は、UHC フォーラムに始まり、東京オリンピック・パラリンピックに合わせて成長のための栄養(N4G)サミットが開催される等、国際保健分野でも様々なイベントが開催されます。日本リザルツでも 7 月 13 日に GGG+ フォーラム 2020 を東京のルポール麹町で開催予定です。より一層皆様と連携してオールジャパン、地球市民で取り組みを進めていければと存じます。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。



新春のお慶びを申し上げます

すばらしい一年になりますよう心からお祈り申し上げます
今年もどうぞよろしくお願いたします

© stock on.com

2020 年 01 月 04 日

箱根駅伝 青学大が総合優勝！

関東の大学対抗で競う「箱根駅伝」は、3 日、復路のレースが行われ、往路を制した青山学院大が、大会新記録のタイムで 2 年ぶり 5 回目の総合優勝を果たしました。青山学院大の三木義一前学長と親しい代表の白須も大喜びしています。

新年早々嬉しいニュースが舞い込んできて、今年は幸先の良いスタートがきれそうですね！

運動靴を送るケニアはマラソン王国です。世界で初めて、マラソン 2 時間切りを果たしたキプチョゲ選手等多くの有名なランナーがいます。また日本のマラソン選手の中にはケニアでトレーニングをしている方もいらっしゃるそうです。今年は東京オリンピックもあります。一生歩ける喜びをケニア、そして世界の貧しい方に届けられるよう、スナノミ症根絶に向けて、日本とケニアの友好を更に強めていければと思います。

本日、Readyfor さんのツイッターでリザルツの取り組みが紹介されました。どうぞご覧下さい！

2020 年 01 月 05 日

本当のスーパーエリート：香川俊介氏を振り返る

皆様、あけましておめでとうございます。代表の白須小町はお孫さんと百人一首勝負をしたようで、メールにも上の句が登場しています。蟬丸(私)も昔の記憶を思い出し、下の句を付けて返信しています。

さて、白須とひょんなことから過去のアドボカシーを振り返る機会がありました。お世話になった財務省の香川俊介様のお話が出てきたので、書き留めておこうと思います。

香川様は主計局主計官、法規課長、総務課長、総務次長、総括審議官等を経て、その後は官房長や主計局長を歴任され、2014 年 7 月から財務事務次官を 1 年間務められました。

香川様は「社会保障・税一体改革」を推進されたことでよく知られていますが、一方で世界三大感染症、エイズ・結核・マラリア患者を救うためにもご尽力されました。

2013 年 10 月 17 日、日本リザルツは、武見敬三参議院議員、WBA 世界バンタム級王者・亀田興毅選



手、超多剤耐性結核を乗り越えたフィリピン出身のミルドレッド・フェルナンド氏、日本で多剤耐性結核を感染・発症した成瀬匡則氏、グローバルファンド(世界基金)戦略・投資・効果局長の國井修氏、グローバルファンド(世界基金)戦略・投資・効果局長の國井修氏、公益財団法人日本国際交流センター執行理事、世界基金支援日本委員会事務局長の伊藤聡子氏、アフリカ日本協議会の稲場雅紀氏と共に、世界基金の重要性を訴えるため、当時主計局長だった香川様を訪問しました。

面談後、香川様からは「皆さんの熱い思いは理解しました」と温かいお言葉をいただき、実際に 2013 年末、日本政府から世界基金へ 8 億ドルの拠出が発表されたのです。

しかし、神様は非情です。香川様は癌のため、わずか 58 歳の若さでお亡くなりになりました。最後の最後まで事務次官としての職務を全うされるため、車いすで執務を行われていたとのことでした。

当時の白須の追悼文

偉い方は総じて偉そうにし、一 NGO 等の話に耳も傾けてくれません。しかし、香川様は、国の予算を握る偉い方なのに、我々のような一 NGO や市民の声にも真摯に耳を傾け、自分の出世や自己の利益だけを考えず、本当に日本がすべきことは何か？を真剣に考えて下さった方でした。

お亡くなりになられた後には有志で追悼文集が発行されたほどでした。

白須はよく職員に「頭だけでなく、心の偏差値を高めることが重要」と言っています。

香川様のような方がまさにそのロールモデルだと思います。

天国から香川様が見守ってくださることを信じて、
私たちも任務に励みたいと思います。



香川健介さん選擇のお手紙

[illegible]

神定勇賀利通職法人往來セザルツ

[illegible]

2020 年 01 月 07 日

いよいよ 2020 年

年が明け、2020 年となりました。日本が東京オリンピック・パラリンピック競技大会と「成長のための栄養(N4G)サミット」を開催する年です。

日本のように栄養不足と過体重や肥満のどちらも少ない国というのは世界で見ても少なく、栄養士制度、学校給食制度、母子手帳といった様々な推奨事例を持つ国として認識されており、N4G サミットにおいてどのような成果をもたらすのか、世界の栄養関係者から期待を寄せられています。この機会を最大限に活かすべく、昨日 1 月 6 日に栄養関係者が日本リザルツに集まり、栄養改善に関する日本の知見を世界に効果的に発信して、各国の栄養政策に貢献するための枠組み作りについて議論を繰り広げました。

栄養サミットは今年の 12 月に開催が予定されています。官民連携やマルチステークホルダーという言葉が取り沙汰される昨今、日本リザルツとしては様々な関係者やこれまであまり関係が深くなかった人々を巻き込んでまとめていけるか腕が試されてくると感じています。



2020 年 01 月 09 日

中国で原因不明の肺炎

昨日の朝日新聞に「中国・武漢 原因不明の肺炎」の記事が掲載されました。

昨年 12 月 12 日に最初に患者が見つかり、市中心部にある海鮮市場の関係者が目立ち、市場は一時閉鎖となっています。ヒトからヒトへの感染は報告されていないそうです。新年早々、感染が拡大しないように願ってやみません。



2020 年 01 月 10 日

米国リザルツ訪問

代表の白須と共に、ワシントン DC に来ています。今回の目的は、米国リザルツやリザルツが結んでいるパートナーシップ(ACTION パートナーシップ)の組織や、今後取り組むことになる業務の進め方について筆者が研修を受けることと、今後の日本リザルツの方針についてより詳細に共有をするということです。



米国リザルツの会議室からの景色です。ワシントン記念塔が小さく見えているのがわかりますでしょうか。



2020 年 01 月 11 日

米国リザルツ訪問 2

昨日に引き続き、米国リザルツで研修を受けました。代表の白須はこの機会に他の機関との会合に行きました。

2 日間の研修を終えて頭が一杯になっていますが、理解が深まりました。また、これまで電子メールや電話でのやり取りのみだった米国リザルツの方々と実際に会うことができたのは良かったです。

写真は昼食の風景です。



2020 年 01 月 12 日

運動靴輸送

クラウドファンディング実施中！

日本リザルツではケニアのすなのみ村に 2 トンの運動靴を輸送するためのクラウドファンディングを実施しています。多くの皆様のご協力もあり、漸く、目標額の約 6 割である 99 万 3,000 円まで到達することができました。

しかし、目標額 150 万円を達成するには、更に多くの方からのお力添えが必要です。つきましては、1 人でも多くの方のご支援をいただけますと幸甚でございます。

ご寄付は 3,000 円から可能で、Readyfor のサイトでの手続きが難しい場合は、郵便局での振り込みでも対応が可能です。詳細な資料が必要な場合は、住所と連絡先をお送りいただければ、こちらから送付させていただきますので、是非、日本リザルツの東京事務所までお問合わせください。

昨年 11 月の参議院外交防衛委員会で「スナノミ症は NTDs に含まれる」という WHO からの画期的な見解を得ることができたのも、日本リザルツが始めた運動靴輸送プロジェクトに端を発したことであります。これを期に、今年は国際機関、関係各政府、民間企業、市民団体、アカデミア等を巻き込んだスナノミ症抑止の支援が進みそうです。私たちも、スナノミ症抑止に向けて取り組みに更に邁進して参りたい所存でございます。どうかお力添えをいただけますと幸いです。

どうぞよろしくお願いいたします。

2020 年 01 月 13 日

運動靴輸送

クラウドファンディングの振込方法

日本リザルツではケニアのすなのみ村に 2 トンの運動靴を輸送するためのクラウドファンディングを実施しています。この中で、「クラウドファンディングのサイトでの決済のやり方が難しい」「登録手続きが煩雑」等のお声を頂戴しました。

そこで、日本リザルツオフィスへ直接振り込みをしていただき、こちらでクラウドファンディングのサイト上での決済を代わりにさせていただけるようにしました。

また、平日午前 9 時～18 時であれば、日本リザルツの東京事務所のほうに、直接お持ちいただくことも可能でございます。

1 人でも多くの方にご支援がいただけますと幸甚でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

2020 年 01 月 14 日

かわいい応援団！

昨年、12 月 24 日の東京新聞の発言欄に、スタッフ戸澤の寄稿が掲載されました。代表の白須のお孫さんであるはるかさんが貧しい子どものために、自分の運動靴を寄付しているという心温まるお話です。

実はこんなかわいい応援団もあります。

はるかさんのひいおばあさんが飼っているマリーちゃんです。

日本リザルツのクラウドファンディングはいよいよ 100 万円の大台を突破しました。1 月 14 日 18 時現在、109 万 4,000 円です。

5歳で始めた
靴送り来年も
NGO勤務戸澤京子 64
(東京都小金井市)
世界、特にアフリカや中
南米には、砂を介してノミ
が足に寄生し、歩行困難に
なる子どもや高齢者がいま
す。スナノミ症といい、世
界保健機関(WHO)によ
り「顧みられない熱帯病」
と認められ、対策が強化さ
れることになりました。
日本リザルツ(NGO)
はスナノミ症の多い地域に
靴を送っています。中には
七歳の女の子もいます。二
年前、自分の小さな靴を何
足も何足も、お母さんと一
緒に洗い、ケニアの子ども
たちに送りました。「早く
大きくなりたいな。そした
らもっとお靴が送れるね」
と。小さな子どもが行った
貢献です。来月再び送るた
め、準備しています。
クリスマス、お正月と贈
り物があふれるこの時期、
苦しむ人々のため自分に何
ができるか、贈り物とは何
かを考えることが大切な
ではないでしょうか。

マリー「皆様のご支援をお待ちしてるワン！」
かわいい応援団と一緒に頑張ります。

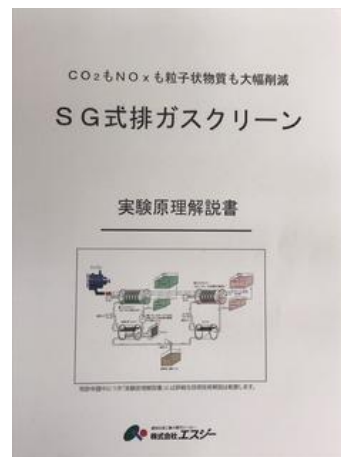


2020年01月16日

株式会社エスジー様来訪

本日も様々なお客様をお迎えしましたが、新規のお客様の株式会社エスジー様からクラウドファンディングにご寄付をいただきました。皆様からのご支援に御礼申し上げます。

エスジー様は、NOX や有害な粒子状物質を浄化する排ガススクリーンシステムを環境改善に役立てたいと考えておられます。写真は株式会社エスジー様のお二人と白須です。



2020年01月19日

80%まで到達

日本リザルツではケニアのすなのみ村に 2 トンの運動靴を輸送するためのクラウドファンディングを実施しています。本日現在、120 万円、目標の 80%まで到達しており、あともう一息となっています。

代表の白須も土日返上で、東京都内を行脚し、自らクラウドファンディングの達成に向けて尽力しています。

さて、「クラウドファンディングのサイトでの決済のやり方が難しい」「登録手続きが煩雑」等のお声を頂戴しました。そこで、日本リザルツオフィスへ直接振り込みをしていただき、こちらでクラウドファンディングのサイト上での決済を代わりにさせていただけるようにしました。

また、平日午前 9 時～18 時であれば、日本リザルツの東京事務所のほうに、直接お持ちいただくことも可能でございます。

募集期限まで残り 16 日となり、1 人でも多くの方からご支援がいただけますと幸甚でございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

2020 年 01 月 21 日

会合が続きます

日本リザルツでは、年が明けてから国際保健に関する様々な会合を開いています。

特に今年は日本政府が 12 月に「成長のための栄養(N4G)」サミットを開催するということもあり、サミットの開催を盛り上げるとともに、今後日本が世界の栄養改善においてリーダーシップを取るための構想を様々な専門家の方と議論しています。



スナノミ症についてのコラム

顧みられない熱帯病の根絶を目指す議員連盟の事務局長、秋野公造議員によるスナノミ症のコラムが九州公明党のウェブサイトに掲載されています。

2016年にケニアのエスンバ村へ行かれた際のお話から昨年11月の参議院外交防衛委員会における質疑等について書かれています。最後に本年も頑張りますという心強い一文がありました。

さて、日本リザルツでは、ケニアのすなのみ村に2トンの運動靴を輸送するためのクラウドファンディングを実施しています。これまでに、目標額の84%にあたる127万4,000円をご支援していただいております。2月4日までに目標額の150万円を達成するため、あともう一息というところです。

クラウドファンディングへのご支援は3,000円から承っております。

クラウドファンディングサイトでの決済が難しい、登録が煩雑という方には、金融機関の口座へのお振込みも承っております。

また、平日午前9時～午後6時であれば、日本リザルツの東京事務所のほうに、直接お待ちしております。よろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス肺炎の懸念＞日本で拡大すると2.7兆円(GDP比0.5%)の損害が発生

●新型コロナウイルス肺炎発生、「飛行機に乗って世界に広がる」

昨年末から中国の武漢で集団発生している新型コロナウイルスによる肺炎の患者は、現在武漢にとどまらず北京市と広東省深圳市にも拡大し、また国外では日本とタイ、韓国で患者が派生しました。当初、今回の新型肺炎は、重症急性呼吸器症候群(SARS)や中東呼吸器症候群(MERS)と違って、ウイルスの人から人への感染は限られており、重症者の割合もさほど高くはない、つまり流行に繋がらないであろうと考えられていました。

しかし、ここに来て北京大の王月丹教授(免疫学)は「発症者が大幅に増えたことを受け『人から人に感染している可能性が非常に大きい』と指摘し」、更に「感染が爆発的に広がる恐れがあると分析」(1月20日付東京新聞)しています。



しかも、中国は春節(旧正月)で人の移動が激しくなっており、中国国内はもとより、「かつては地域限定の風土病として収まったかもしれない感染症が飛行機に乗って世界に広がる時代」(1月18日付毎日新聞)になっていますから、中国外に一気に拡大する懸念も大いにあります。実際、以前の SARS 騒動は春節の後にもたらされました。

そこで心配なのは日本です。今夏には東京オリンピック・パラリンピックが開催されますが、期間中は世界中から、もちろん中国からも大勢の人が訪日します。その時「感染症と一緒に持ち込まれる可能性は十分にある。逆に日本から海外に感染症を輸出してしまう恐れもある」(同上)ということも考えられます。

●もしオリンピック・パラリンピック時に新興感染症が広がった場合、2.7 兆円(GDP 比 0.5%)の損害

さて、日本政府は 20 年の訪日客数を 4,000 万人に増やす目標を掲げています(2019 年は 3,188 万人)。実は「内閣官房や厚生労働省等が、(我が国で新興感染症が広がった場合)03 年に香港で感染拡大した SARS と、15 年に韓国で 36 人の死者を出した MERS について経済損失を分析」しています。その結果は、「訪日客が約 1,300 万人減少。小売業等に影響して国内全体で 2 兆 7,000 億円(GDP 比 0.5%)の損害が発生し、観光業を中心に 58 万人分の雇用が減ると推定」しています。

●新型肺炎対策のための費用に航空券連帯税が必要

東京オリンピック・パラリンピックまであと半年余りで、それまでに新型肺炎が収束すればよいのですが、拡大していく可能性も無きにしも非ずです。すると中国との航空機を乗り入れている空港は検疫態勢を強化しなければなりませんし、医療体制も強化しなければなりません(既に行っていますが)。いずれにせよ多大なコストがかかることになります。

このコストですが、もちろん政府支出になります。しかし、航空機利用者も一定の負担が求められるのではないのでしょうか。私たちは短時間で遠くまで行ける利便性・効率性を国際航空網の発達で得ることができましたが、他方で感染症等の世界的な拡大という負の影響も及ぼしています(もうひとつの負の影響は二酸化炭素の大量排出)。その負の影響をカバーするための仕組みが、航空券連帯税等、税制を通してコストを負担することです。

なお、国境を超える交通網はクルーズ船等、船舶によるものがあり、中国からも大勢の訪日客がやってきます。こちらの方も乗船券連帯税が必要です。

こういう意味からしても、「国際連帯税創設を求める議員連盟」が求めている国際連帯税実現に向けた取り組みに注目していきましょう。私たちも全面的に支援していきたいと考えています。

《この間のメディアの報道》

【東京新聞】北京大教授、人から人の可能性大 新型肺炎、爆発的に広がる恐れ

【日本経済新聞】中国新型肺炎の死者3人に 北京や広東省でも発症確認

【毎日新聞】(社説) 新型肺炎国内で確認 春節の大移動期に注意を

【毎日新聞】(土記) 新型ウイルス、どう挑む? =青野由利

【毎日新聞】新興感染症 20年、国内で広がると…経済損失2.7兆円

★写真は、上記日経新聞より

2020年01月23日

靴の発送準備

全国の皆様から寄付していただいた靴をなかなか整理できずにいましたが、クラウドファンディング成立後なるべく早く送るために整理をしました。



お手紙やメモ、折り鶴等を入れてくださっている方も多数おられました。

お礼状が遅くなってしまいましたが、お送りさせていただきます。



武漢市封鎖：新型肺炎、致死率3%超え>

日本でのコストは観光客負担も

新型コロナウイルス肺炎の感染拡大がとどまらず、患者数も500人超となり、死者は17人に上るようになり、中国政府はついに発源地の武漢市を封じ込める体制に入ったようです(食料や飲料水等市民生活



が心配ですね)。

当初この新型肺炎は感染力・毒性が弱いのでそう心配することはないと言われていましたが、どうやらウイルスが変異を遂げ、感染力・毒性を強めつつあるようです。実際、これまでの同じくコロナウイルスによって起きる感染症での致死率を見ますと、次のようになり、パンデミックとは言わないまでもその手前まで来ているようです。

- ・ MERS(中東呼吸器症候群)…35%
- ・ SARS(重症急性呼吸器症候群)…10%
- ・ 一般インフルエンザ…0.1%
- ・ 今回の新型ウイルス肺炎…3.4%(22 日現在：患者数 500 人、死者 17 人)

さて、私たちにとって問題は、「かつては地域限定の風土病として収まったかもしれない感染症が飛行機に乗って世界に広がる時代」の中にあって、主に中国から大勢押し寄せる訪日観光旅行者です(春節には 700 万人が海外に出るとのこと)。まずは空港やクルーズ船の寄港地での検疫体制を強化することですが、全体の保健・医療体制を含め莫大なコストがかかることが予想されます。

このコストについてすべて国家予算で賄うのではなく、航空機(ならびに船舶)を利用し観光等を行っている旅行者に一部を負担していただくことが必要です。その仕組みが、航空券(乗船券)連帯税です。その税収の一部を新型肺炎対策に使用することを求めていると思います。

【日経新聞】新型肺炎、武漢市が交通機関を停止 死者は 17 人に

【朝日新聞】新型肺炎で識者「SARS より感染力・毒性弱そうだが」

★写真は武漢市のもよう(上記日経新聞より)

2020 年 01 月 25 日

靴梱包作業

日本リザルツでは、ケニアでスナノミ症に苦しむ方々へ靴を送るためのクラウドファンディングを行っています。今日は、ケニアに送る靴の梱包作業を行いました。



スナノミを防げる靴か、穴等が無いのか、靴を 1 足ずつ確認し、新聞紙で包んで段ボール箱に詰めていきます。



作業は進みますが、靴はまだあります。



作業量が多いため、助っ人の方々に来ていただきました。とても助かりました、ありがとうございます。作業は明日も行います。



2020 年 01 月 26 日

日本政府が国産ドローン普及を支援

本日の日経新聞に興味深いニュースが載っていました。

国産ドローン普及を支援 政府、中国製に安保上懸念

政府は国産ドローン(小型無人機)の普及に向けた支援を拡大する。製品開発を後押しするため、情報面の安全性等を要件に資金調達を優遇する法案を 2 月にも国会に提出する。インフラ点検や災害対策等、政府調達も広げる。ドローンを使った新サービス育成への期待は高いが、現在は中国製のシェアが大きい。安全保障上の懸念から国内事業者の育成を急ぐ。

日本リザルツも関係各省庁や民間企業と連携し、保健分野へのドローン普及推進に向けた取り組みを行っています。2017 年の UHC フォーラムには白須の粘り強い交渉の甲斐もあり、首相宣言に「ドローン」の名前が盛り込まれました。

これに端を発し、ドローンを使った保健分野でのイノベーションが進んでいます。

日本政府の支援が入ることで、こうした気運がますます高まるといいですね。

2020 年 01 月 28 日

国際母子栄養改善議員連盟入会促進

国際母子栄養議員連盟への入会をお願いする資料を昨年 12 月に国会議員の方々に配布しましたが、年が明けて改めてお願いの資料を配布しました。

今回は入会のお願いとともに栄養サミット開催についての読売新聞の記事、そして「教えて！外務省 知っておきたい国際協力」の東京栄養サミット 2020 についての記事を配布しました。

日本が世界の栄養改善のために本気を示し、リーダーシップを発揮できるよう、議員連盟もより大勢の議員の方々が参加する強力なものとなって欲しいです。



2020 年 01 月 29 日

PMAC2020

最近、霞ヶ関が静かだ...

そう思っているそこのあなた！そうなんです。魔法使いどころか、代表の白須は今タイのバンコクに来了います。UHC フォーラム(PMAC)に出席しているのです。栄養関係者の皆さんと、今日はケニアからひよここと長坂も参戦し、サイドイベントに乗りこみました。



朝は WHO のセッションに参加。市民社会の役割について議論しました。

WHO の ADG の山本尚子先生もメインスピーカーで参加されていました。小さな声に耳を傾けることと、実際に参画がなされるためには金銭的、組織的な設計が重要であることを指摘されていました。



ベトナム、ミャンマー、タイの事例をもとに保健政策を策定する際にどう社会的参画を進めるのかという議論を行いました。

タイではなんと、Health assembly という会議が開かれているそうです。画期的ですね！

ビル&メリンダ・ゲイツ財団の方も質問されており、社会参画の成功事例はグローバル、コミュニティどちらのアプローチで行うのが効果的なのかという、戦略設計で重要な質問をされていました。



途中で体操。疲れた頭をリフレッシュさせます。

後半のセッションでは UHC の中に栄養が明確に含まれていないことについて、専門家から指摘がありました。N4G サミットも開催される予定ですので、UHC と栄養の関連性については今後もアドボカシーを続ける必要があると感じました。



午後は UHC と皮膚病のセッションに出席しました。



戸田上級審議役からは、ハンセン病の事例をもとに皮膚病が偏見、差別の対象になってしまった問題を繰り返さないよう、全ての人間の安全保障を守るために皮膚病への取り組みが必要であることが訴えられました。



このセッションでは筆者もケニアでまん延するスナノミ症について発表しました。学生さんやお医者さんも初めて見るスナノミの画像にびっくりされ、真剣に耳を傾けて下さいました。



戸田上級審が皮膚病と偏見等、社会的要因について触れていらっしゃいましたが、スナノミ症は学術的にも解明がなされていない「見過ごされている」病気です。

オール地球市民でスナノミ症を根絶するために何が課題かを述べさせていただきました。1人でも多くの人に知ってもらえる機会を作って下さった JICA の皆様、ありがとうございました。

尚、ひよこはケニアに帰りますが、どーらはまだまだバンコクで PMAC の成功を応援し続けます。

2020 年 01 月 30 日

どーらのタイ珍道中

今週はタイのバンコクに来ている霞が関の魔法使いどーら。今日も朝から、栄養専門家の方々と成長のための栄養(N4G)サミットに向けたアドボカシーを行っています。

結核抑止に関するセッションでは、どーら自らが発言しました！



どーらはストップ結核パートナーシップ日本の代表理事です。結核に関する取り組みが治療のみにフォーカスされていることを指摘した上で、結核予防の観点から適切な栄養を摂ることの重要性を訴えました。



皆さん、病気を予防するには健康な身体が必要だ！健康を保つには栄養介入が必須だ！当然重要だ！皆さん、納得！という、切れ味の良いコメントだったようです。まるで、政治家のようですね！

どーらの珍道中はまだまだ続きます。



クラウドファンディング目標額達成！

昨年の12月から行ってきた、ケニアに靴を送るためのクラウドファンディングですが、皆様のおかげで本日目標額 150 万円を達成いたしました。ご支援、ご周知等いただいた方々に深く感謝申し上げます。

達成はしましたが、2月4日(火)まで募集は継続しております。ご支援を賜れましたら幸いです。

なお、ご支援は金融機関口座へのお振込みも承っております。

靴梱包作業 2

今週、ボランティアの藤崎さんには、先週末行った靴梱包作業の続きを行っていただきました。一枚目の写真の後ろの方に移っている白い箱が大きさ毎に分けて箱詰め作業が終わり

ったもの、二枚目の写真はこれから靴梱包作業を行う箱です。まだまだあります！



2020 年 01 月 31 日

PMAC 本会議

今日から UHC フォーラム (PMAC) の本会議が始まりました。タイ・バンコクに滞在中の魔法使いどーら(白須)は、コロナウイルスの脅威にも負けず、アドボカシー活動に精を出しております。

本日は本会議ということで、国会議員の先生、関係各省庁、JICA、国際機関の日本人幹部、そして学術界の重鎮の方々と、今年開催される成長のための栄養(N4G)サミットを成功させるにどうしたらよいか、議論を交わしました。



橋本岳厚生労働副大臣と。



JICA の戸田上級審議役、武田薬品の佐藤様と。



グローバルファンドの國井先生と。



WHO のADG の山本尚子先生がコーディネーターを務められたプレナリーセッションでは、JICA の戸田上級審議役から、N4G サミットが東京で開催されるので、UHC の中でも栄養が注目される！という力強い発言がありました！会場からも拍手が起こったそうです。N4G サミットに向けた気運が益々高まりそうですね。



次のセッションでは、 国立国際医療研究センター(NCGM)の井上先生がメインスピーカーを務められていました。

日本人の方が大活躍ですね。

どーらのバンコク珍道中は明日まで続きます。

